資料５

アンケート結果おける所感等について

◎認知症施策個別アンケートを実施しての所感

○　認知症の当事者とその家族へのケアは、これまで別々で行われてきたところがあるが、本調査では、市職員が当事者、介護者へ聞き取ることで、家族間の話し合いの場ともなり、当事者と介護者が一体的に関わる時間を市職員とともに共有でき、家族の関係性に対して良い効果をもたらしたのではいかと感じた。

○　また、認知症当事者の家族（介護者）については、認知症に関する理解を深められるような勉強会などの取組みや、同じ境遇（立場）の人などが互いの情報を交換し、苦労を聞いてもらえるような場の提供等のピアサポートが求められていると感じた。

○　調査の中で、「認知症カフェに行ったことがあるが、既にグループができていて参加しづらかった。」という意見に対し、今後、市や高齢者あんしん相談センターの介入として、ピアサポートの本意である「仲間・対等」を念頭に置いて、同じ境遇（立場）の人が安心して話せる場づくりの提供と、個人の体験を尊重し合う姿勢の醸成が必要であると感じた。

○　また、「市役所の人が当事者の話を聞いてくれるのは非常によいことだと思う。」という意見に対し、これまで市職員が直接訪問して、当事者や介護者の「こころの声」を吸い上げるということは実施してこなかったが、今後は可能な範囲で直接「こころの声」を聴くとともに、心身の状況や生活環境を把握するなどのアセスメントを行うなど、関係機関との円滑な連携を図ることの必要性も感じた。

◎ アンケート調査（選択式・個別アンケート）の集計直後の分析として（速報）

○　一般高齢者向けアンケートと認知症施策個別アンケートによるギャップについて

「充実して欲しい施策」について、

<u>個別訪問による聞取りでは</u>、「日頃の苦労を吐出す場が欲しい」「同じ境遇（立場）の人などが互いの情報を交換しあう場がほしい」など、交流や相談の場の情報が欲しいというニーズに対し、

<u>一般高齢者向けアンケートでは</u>、「認知症の方や家族が交流や相談ができる場が欲しい」の比較的ニーズが低い（一般高齢者 20.9%）という結果となった。